Introduction

青山隆彦 (日本大学薬学部)

R for Pharmacometrics

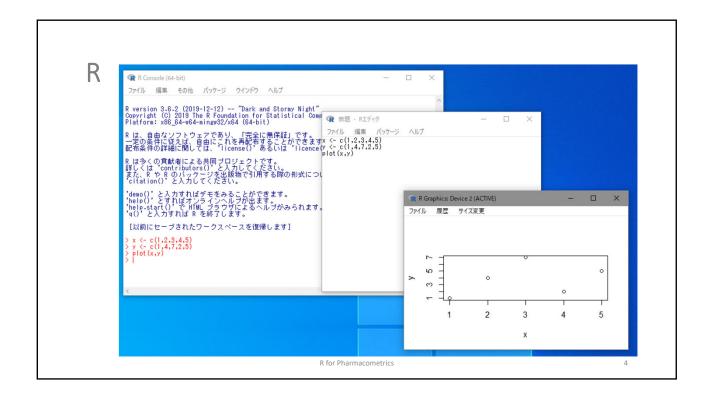
1

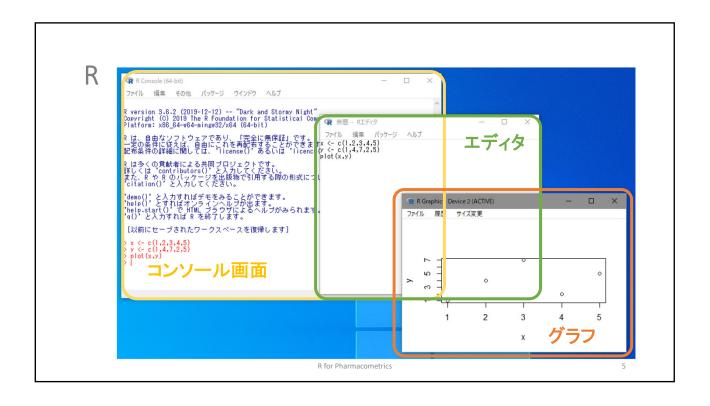
Contents

- Rとは
- Rstudioの操作
- Packageによる機能拡張
- ・コーディング
- Rmarkdownによるドキュメント作成

R for Pharmacometrics



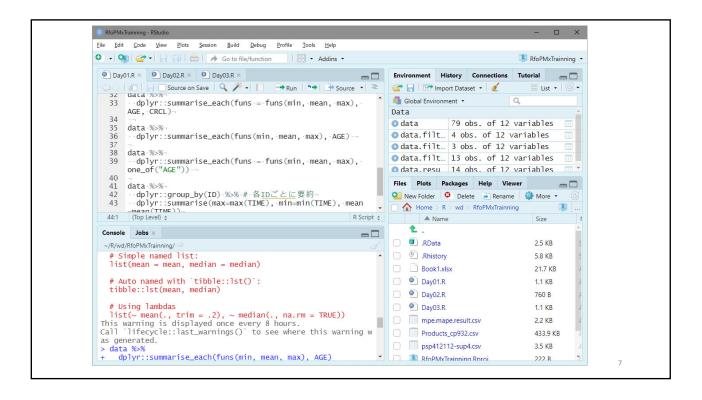


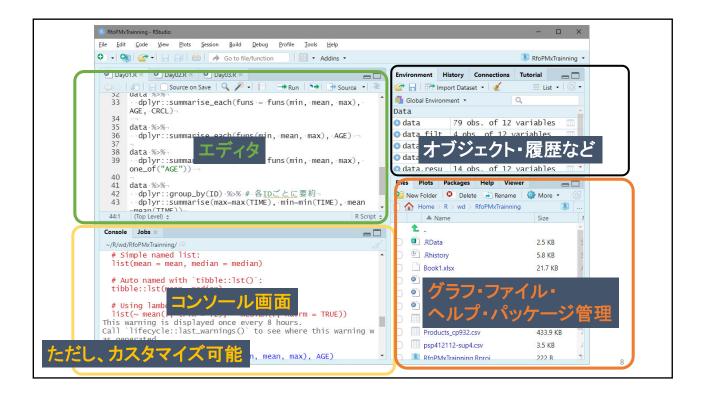


Rstudio

- Rの統合解析環境(integrated development environment, IDE)
- https://rstudio.com/products/rstudio/ よりダウンロード可能
- 無料版、有料版、サーバー、クラウド
- Projectごとに環境設定可能
- Tabキーによるコードの補間
- Rmarkdownによるドキュメント作成
- data viewer
- パッケージの管理

R for Pharmacometrics

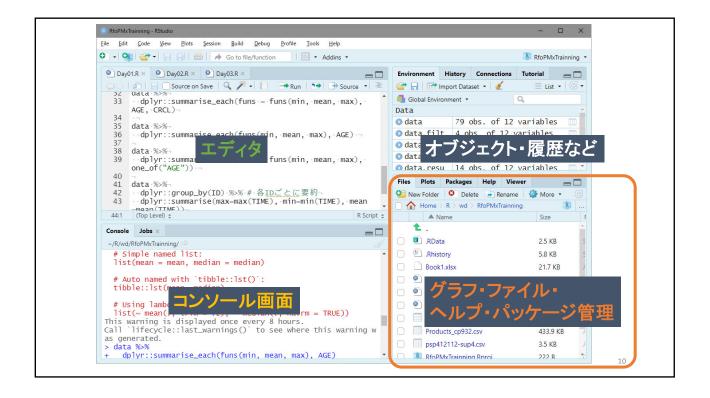


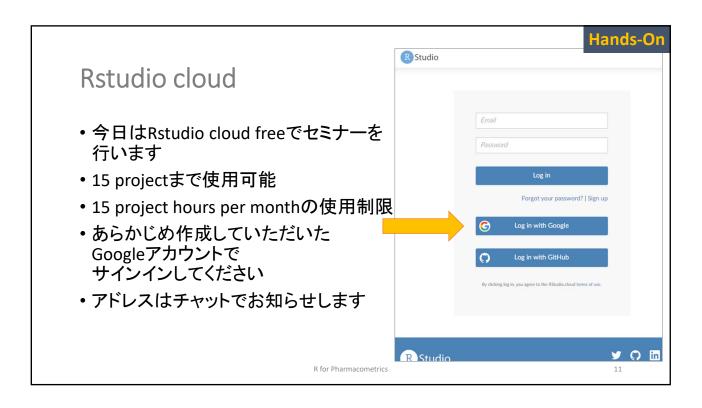


Package

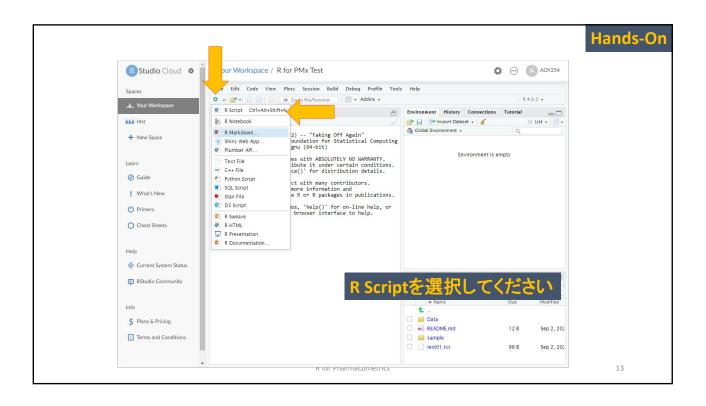
- Packageをインストールすることにより機能を追加することができる
- 本日使用する主なpackage
 - ✓dplyr データの加工
 - ✓ggplot2 グラフ作成
 - ✓ readr データの読み込み
 - ✓gridExtra グラフ表示
 - ✓GGally グラフ表示
- Packageをインストールする
 - ➢install.packages("dplyr")
- Packageを使う
 - ➤library(dplyr)

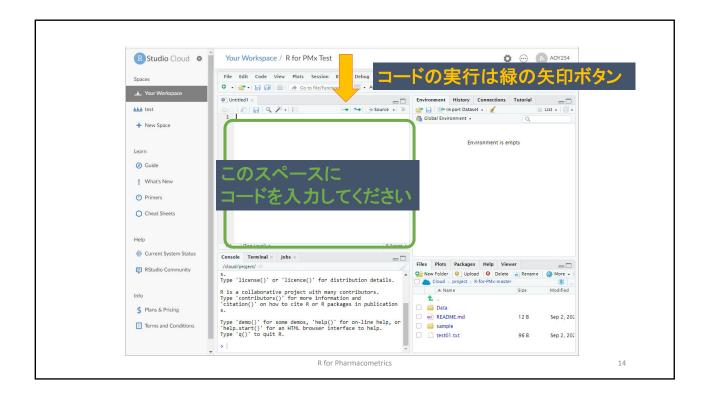
R for Pharmacometrics 9











コーディング

x <- c(2, 4, 6) # シャープの後ろは読み込まれない

xに2, 4, 6の数字の列を代入(付値)するの意味 c()は数字の列(ベクトル)を作成する関数 大文字と小文字は区別される

y <- matrix(c(1,2,3,4,5,6), ncol=2)

1,2,3,4,5,6の数字の列を、列数が2列のマトリクスにし、yに代入する

関数(引数1=対象, 引数2=..., 引数3=..., ...)というパターンが多い

R for Pharmacometrics

15

Rで扱うデータ

• 主にベクトル、マトリクス、データフレーム、リストの4つ

ベクトル

数値や文字が並んでいるデータ

データの型

> V <- c(1:20) > V [1] 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 [18] 18 19 20

実数型

> v2 <- c("赤", "黄色", "青", "red", "blue") > v2 [1] "赤" "黄色" "青" "red" "blue"

文字列型

R for Pharmacometrics

Rで扱うデータ

マトリクス

- 行列形式に並んだデータ
- 列優先
- 数値と文字の混在不可 -> 全て文字列型となる

```
> m <- matrix(v, nrow = 5)
     [,1] [,2] [,3] [,4]
[1,]
            6
                 11
                       16
[2,]
             7
                 12
                       17
[3,]
            8
        3
                 13
                       18
[4,]
        4
            9
                       19
                 14
            10
                       20
[5,]
                 15
```

```
> m2 <- cbind(m, v2)

> m2

[1,] "1" "6" "11" "16" "赤"

[2,] "2" "7" "12" "17" "黄色"

[3,] "3" "8" "13" "18" "青"

[4,] "4" "9" "14" "19" "red"

[5,] "5" "10" "15" "20" "blue"
```

R for Pharmacometrics

17

Rで扱うデータ

データフレーム

列が異なれば数値と文字両方扱える

^	x	у 💠
1	1	red
2	2	blue
3	3	yellow
4	4	green
5	5	pinc

データフレームの列は データフレーム名\$列名 で参照する

```
> d$x
[1] 1 2 3 4 5
```

R for Pharmacometrics

Rで扱うデータ

リスト

- データをまとめたもの
- リスト名\$要素名で、リスト内の 要素を参照できる
- 関数の結果として 用いられることが多い

```
> L <- list(mat=m, vec=v2, value=999) > L
$mat
     [,1] [,2] [,3] [,4]
[1,]
               11
[2,]
               12
                    17
[3,]
       3
            8
                13
                     18
               14
[4,]
            9
                     19
[5,]
       5 10 15
                    20
$vec
[1] "赤" "黄色" "青" "red" "blue"
$value
[1] 999
```

```
> L$vec
[1] "赤" "黄色" "青" "red" "blue"
> L$mat[,2]
[1] 6 7 8 9 10
> L$mat[2,2]
[1] 7
```

R for Pharmacometrics

19

データの型 代表的なもの

数值型

• 1, 2, 3,

文字列型

• "赤", "青", "red", "blue"

論理型

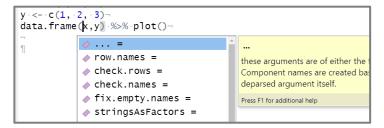
• TRUE, FALSE

関数はデータの型によって異なる挙動を示す

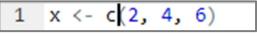
R for Pharmacometrics

R studioでのコーディングとコードの実行

関数のカッコ内でTabキーを押すと、引数の候補が表示される



マウスによる選択箇所により、実行されるコードが変わる



c < -c(2, 4, 6)1

この行を実行

R for Pharmacometrics

選択した範囲を実行

Hands-Or

演習-1

• 先ほど作成したR scriptに以下のコードを記述し、実行してください

x < -c(2, 4, 6)y <- c(1, 2, 3)data <- data.frame(x,y) plot(data)

コードを全て選択して実行 x だけ選択して実行

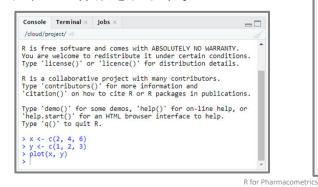
data だけ選択して実行など試してください

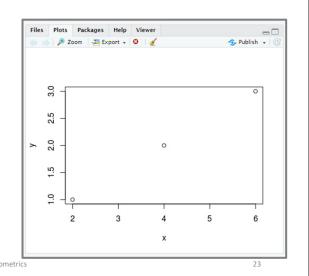


Hands-On

解答-1

エディタに入力し実行したコードがコンソールに表示され、 グラフが作成されます。





パイプ演算子 %>% Ctrl + Shift + M

- packageのdplyrにより使用可能になる
- ・%>%の左側の関数の結果を、右側の関数の第一引数にする
- ・連続する処理を行う場合
- a <- xxx(b) %>% yyy() %>% zzz()

R for Pharmacometrics

R markdownによる ドキュメント作成

R for Pharmacometrics

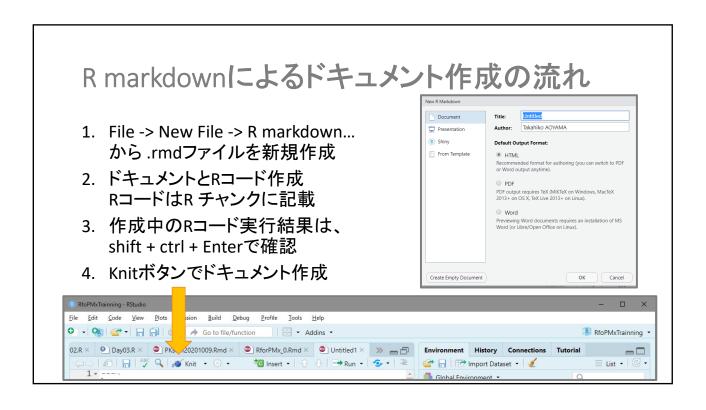
25

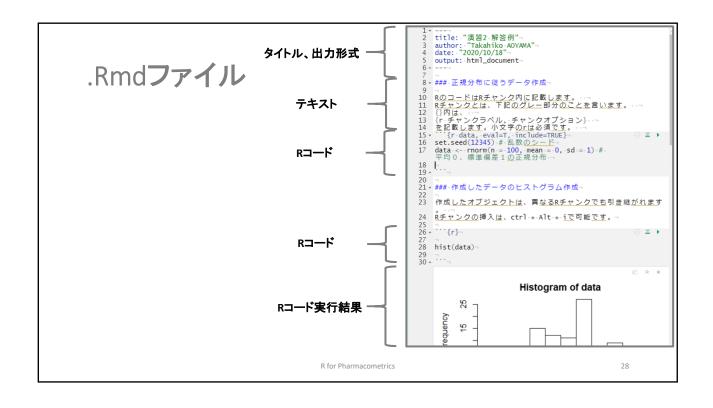
R markdown

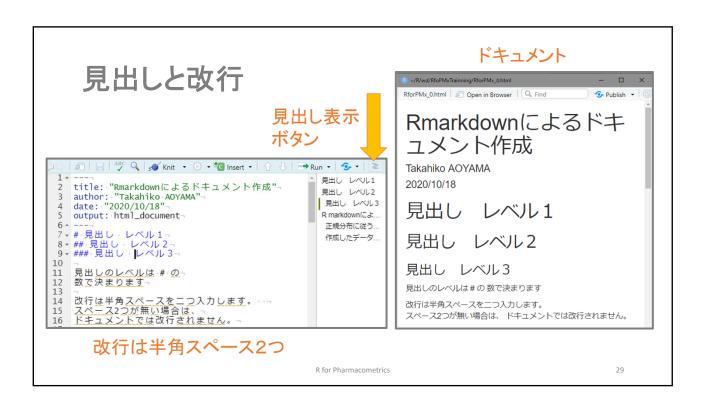


- Rのコードと実行結果、解説文等を、html, pdf, doc形式で出力
- Rコードとドキュメントを同時に作成できる
- Rコードの実行結果がコード記載部分のすぐ下に表示される
- Rstudio Help
 - -> Cheatsheets









Rチャンク

• Insert -> Rまたは Ctrl + Alt + iで作成

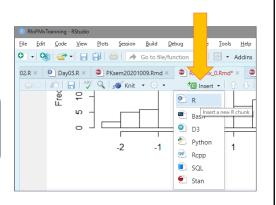
```{r チャンクラベル, チャンクオプション}

ここにコードを書く

\*\*\*

- Rstudioでは薄いグレーで表示される
- チャンクラベル
  - ▶Rチャンクのラベル(タイトル)
  - ▶省略した場合は番号が自動で割り振られる
  - ▶同じラベルは使用できない。

R for Pharmacometrics



# チャンクオプション

Rチャンクの実行方法を指定する例 ```{r label, eval = TRUE}

| オプション   | デフォルト | 説明                                                     |
|---------|-------|--------------------------------------------------------|
| eval    | TRUE  | Rチャンクを実行する                                             |
| echo    | TRUE  | Rチャンク内のコードをドキュメントに表示する                                 |
| include | TRUE  | FALSEに設定すると、Rチャンク内のコードを実行するが、Rチャンクと実行結果ともにドキュメントには含めない |
| error   | TRUE  | エラーをドキュメントに表示する                                        |
| warning | TRUE  | warningをドキュメントに表示する                                    |

# 演習-2

- R markdownによるドキュメント作成
- 以下のコードを利用し、正規分布のヒストグラムを作成するドキュメントを作成してください

set.seed(12345) # 乱数のシード

data <- rnorm(n = 100, mean = 0, sd = 1) # 平均0、標準偏差1の正規分布に従う乱数を100個作成

hist(data)

R for Pharmacometrics

# 解答例-2

• R studioで表示

R for Pharmacometrics